

社会資本整備総合交付金チェックシート

(汎用タイプ)

計画の名称： 佐和駅を中心とした安心・安全に暮らせる拠点づくり（防災・安全）

市町村名： ひたちなか市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との整合性 ⇒当地区は都市計画マスタープランの「都市づくりの基本的な方針」において、佐和駅周辺地区として拠点地区に位置づけられており、都市計画道路及び佐和駅東口交通広場の早期整備が求められている。	○
②地域の課題への対応（地域の課題と整備計画の目標の整合性） ⇒佐和駅へのアクセスが西側のみとなっていることが当地区の課題であり、東口交通広場や東西自由通路の整備を行い、交通結節点となる佐和駅の利用環境を改善することが求められている。	○
II. 計画の効果・効率性	
①整備計画の目標と定量的指標の整合性 ⇒「安全・安心な街づくり」の達成度を計る指標として、地区内定住者、緊急車両到達可能範囲及び佐和駅利用者数を用いており、整備計画の目標と定量的指標は整合している。詳細は別紙参照。	○
②定量的指標の明瞭性 ⇒住民基本台帳ベースの人口、使用収益開始済の仮換地面積及びJR公表値を用いて、現況値と目標値を比較することから、定量的に目標達成度が計りやすく、指標は明瞭である。詳細は別紙参照。	○
③目標と事業内容の整合性 ⇒区画整理事業による都市基盤整備と併せて、佐和駅の利用環境を改善することで、佐和駅周辺地区の安全・安心な拠点づくりに繋がることから、目標と事業内容は整合している。	○
④事業の効果（要素事業の相乗効果等）の見込みの妥当性 ⇒佐和駅周辺地区を一体とした整備を行うことで、佐和駅を中心に防災機能を備えた市街地形成が図られることから、事業の効果の見込みは妥当である。	○
III. 計画の実現可能性	
①円滑な事業執行の環境（事業熟度、住民等の合意形成を踏まえた事業実施の確実性） ⇒平成26年3月に事業見直しの全体説明会を開催し、その後全地権者にアンケート調査を行った結果、約8割の地権者が都市計画道路及び佐和駅東口交通広場等を優先的に整備していくことに賛成しており、住民の合意形成は十分図られていることから、円滑な事業執行の環境は整っている。	○
②地元の機運（住民、民間等の活動・関連事業との連携等による事業効果発現の確実性） ⇒佐和駅周辺地区の都市基盤を整備することで、防災機能を備えた良好な街並みが形成され、新居従者の誘導を図ることができる。	○

社会資本総合整備計画の変更時チェックシート

計画の名称：佐和駅を中心とした安心・安全に暮らせる拠点づくり（防災・安全）交付対象：ひたちなか市

チェック欄

I. 基礎項目	
1) 整備計画の日付が年月日まで記載させているか。誤りはないか。	○
2) 交付対象に変更がないか。	○
3) 事業費欄の金額に誤りがないか。効果促進事業費の割合が2割目途となっているか。	○
II. 基幹事業を追加、変更する場合	
1) 道路区域内の事業か。	○
2) 計画の目標を実現するための事業となっているか。	○
3) 特定の施策に特化した特化計画の場合は、該当する施策ごとに示す条件に合う要素事業であるか。（該当する施策は、別紙を参照）	—
4) 計画の成果目標(定量的指標)に合致する事業か。（定量的指標に合致しない基幹事業の場合は「—」を記載）	○
5) 定量的指標の目標値に変更はないか。（目標値の変更に該当しない基幹事業の場合は「—」を記載）	—
6) 基幹事業の全体事業費に誤りはないか。計画期間の総事業費になっている	○
7) 記載内容に誤りがないか（道路種別、事業内容（延長、面積等）等）	○
III. 関連社会資本整備事業を追加、変更する場合	
1) 計画の目標を実現するため基幹事業と一体的に実施することが必要な社会資本整備重点計画法に掲げる事業か。	—
2) 一体的に実施することにより期待される効果には、基幹事業と一体的に実施することによる効果が明確に記載されているのか。（H22年度版補助事務提要P698、699を参照） 例) 基幹事業○と一体的に○○を実施することにより○○となり、○○を図る。	—
IV. 効果促進事業を追加、変更する場合	
1) 計画の目標を実現するため基幹事業と一体となってその効果を一層高めるために必要な事業か。	—
2) 一体的に実施することにより期待される効果には、基幹事業と一体的に実施することによる効果が明確に記載されているのか。（H22年度版補助事務提要P698、699を参照） 例) 基幹事業○と一体的に○○を実施することにより○○となり、○○を図る。	—

(別紙) 社会資本整備総合交付金

計画の名称：佐和駅を中心とした安心・安全に暮らせる拠点づくり（防災・安全）

市町村名：ひたちなか市

(補足)定量的指標の定義および算定式について

定量的指標：交通事故死傷者件数(佐和駅周辺半径1km)

	基準時点	定義	数量
当初現況値	平成28年4月	平成28年の交通事故死傷者件数	55件
中間目標値	平成30年度末	当初現況値及び最終目標値の中間値	52件
最終目標値	平成32年度末	茨城デジタルマップ(交通事故発生マップ)の事故件数	50件

定量的指標：緊急車両到達可能範囲

	基準時点	定義	数量
当初現況値	平成28年4月	平成27年度末時点の使用収益開始済の仮換地面積及び使用可能な保留地面積の割合	14.9%
中間目標値	平成30年度末	当初現況値及び最終目標値の中間値	17.0%
最終目標値	平成32年度末	$\frac{[\text{使用収益開始済の仮換地面積及び使用可能な保留地面積}]}{[\text{区画整理後の宅地面積及び保留地面積合計}]} \times 100$	19.0%

定量的指標：駅利用者数(JR公表値) ※JR公表値に訂正があったため今回修正

	基準時点	定義	数量
当初現況値	平成28年4月	平成26年度の佐和駅乗車数×2	7,642
中間目標値	平成30年度末	当初現況値及び最終目標値の中間値	7,835
最終目標値	平成32年度末	$[\text{JRが公表している佐和駅乗車数}] \times 2$ 乗車数:定期利用+定期外利用合計	8,025